

25 鳥豆稲荷大明神

場所 上茅原
時代 不詳



上茅原太田組の大道出(約10戸)が管理する稲荷大明神は、和歌山街道の小片野町と茅原町の境に位置する鳥羽峠にある。この付近を鳥豆(とりばみ)といい、天正11年(1583)には、五箇篠山城に籠もり北畠再建を謀る北畠軍と織田軍がこの鳥羽見峠で激しい戦いが繰り広げられたという。また、寛政6年(1794)10月、本居宣長の和歌山への紀行文「紀見のめぐみ」には、「もる人もなき柿なれば 我もいさ枝高くとも とりはみの山」とこの峠で詠まれた歌がある。

稲荷神社の祭神は、五穀を司るとされる宇迦之御魂大神(うかのみたまのおおかみ)を主な祭神で、稲の豊作にご利益があると崇敬されています。



お稲荷様は、その名の通り稲に関する神様です。そもそも稲とは「命の根」を意味します。その稲が生る＝いなり、ということから、お稲荷様と名づけられたと言われています。

全国のお稲荷様は、神道系と仏教系に大きく分けることができます。神道系の代表は京都の伏見稲荷大社です。仏教系の代表は、愛知県の豊川稲荷(圓福山妙厳寺)です。

また、お稲荷様には狐の像が付きものですが、祭神は狐の姿をしていません。狐は稲荷神の御遣いとなる神使なのです。狐には昔から人の寿命や作物の収穫量などの未来が分かり、人の精気を奪う、あるいは人を化かすなど、神秘的な動物として扱われてきました。たれ下がった稲穂が尻尾に似ていることや、米を食べるネズミを退治するこ

と、また、稲荷神社の祭神である宇迦之御魂大神の別名が御饌津神(みけつかみ)と言い、これが漢字で「三狐神」と書けることなど、お稲荷様の御遣いが狐となった理由には、諸説あります。また、狐は春になると山から人里に降りてきますが、秋になるとまた山に戻ります。同様にお稲荷様も田植えの時期に現れて、秋の収穫が終わると山に戻って行くと言われ、その類似性から、お稲荷様と狐を結びつけられました。

毎年、祭神の命日である2月20日には、餅まきが行われていましたが、現在はされていなくて、周辺の掃除等のみしているとのことでした。私が写真を撮りに行ったときは、掃除がされたばかりでとてもきれいでした。



26 金毘羅神

場所 上茅原
時代 不詳

前述の25 鳥豆稲荷の向かって右にある石廊が金毘羅神である。石廊内には木製の社殿があったが、今は朽ちて形をとどめていない。金毘羅神は、サンスクリット語の「クンビーラ」で、もともとはガンジス川に生息するワニを神格化した水の神様の名前が語源だと言われている。金毘羅さんは漁業や航海などの安全を司る海の神様、「大物主(おおものぬし)神」を祭神とする神社である。



石廊の向かって右の立石は、原始信仰の対象の男性シンボルを使用しているのが目につく。この地域の調査の中のうち、「山の神」にも同様のものがあったという。

金毘羅神だけの祭日はなく、「稲荷」と同時に行われていたようだ。

茅広江さとだより

茅広江住民自治協議会
会長 小塩 正明
令和6年2月発行

「茅広江さとだより」発行にあたって

「茅広江さとだより」の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。平素は、茅広江住民自治協議会の活動に、ご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスの2類から5類への移行に伴って茅広江住民自治協議会の活動も年度当初に計画しましたことを実施してまいりました。

地区体育祭はつばな保育園と一緒に開催することができ、150人もの方々に参加していただきました。今年度は、これまでの地区対抗から紅白対抗の形にし、参加者を赤組・白組に分け、競技をしていただきました。そして参加者が楽しんで競技ができるような内容にしました。



後半は雨が降り残念でしたが、皆さんはいかがでしたか。

ふれあいまつりでは、作品展示やゲーム、農産物、花苗、焼き芋などの販売があり、大人だけでなく子どもたちもたくさん来ていただき、大人の

自治会部会

月1回開催される「まちづくり会議」において、3地区の活動の連携を行っています。今年度については、環境美化活動や各自治会の防災訓練などの情報交換をしています。また、公民館長の推薦についても話し合っていました。

2月4日には、南ブロック自治会長等研修会が、下茅原公民館にておこなわれました。今年度は茅広江住民自治協議会が幹事で、各地域の「アフターコロナ」の取り組みについて発表しあいました。

方々にもゲームを楽しんでいただきました。

ふれあいウォークラリー大会では、広瀬地区を会場に220人もの方々が参加をしていただきました。宝探しやクイズなど、グループや家族で楽しんでいただきました。天候もよく、「ぜんざい」のふるまいなどもあり、楽しいひと時となったものと思います。



助け合い組織「ちひろえ」は3年目となり、依頼を受けた方々の家の周りの草刈りや垣根の刈り揃えなどを中心に行いました。草刈り機、防除機、トリマーなどを使って作業しました。暑い時期の仕事は大変でしたが、利用者の皆さんが喜んでいただくとうれしくなります。今年も何件かの依頼があり、登録メンバーの方々に作業をしていただきました。私たちの地域でも高齢化が進み、今後、助け合い組織「ちひろえ」の活動が益々必要になってくると思います。希望されます方は、センターか自治会長までお問い合わせください。

(電話 34-1001)

また、先日、熊野市から助け合い組織「ちひろえ」の取り組みについて視察にみえました。熊野市でも高齢化が進み、地域の助け合いが必要になっているとのことで、地域の実情など、お互い情報交換しながら研修会を行いました。



健康福祉部会

コロナも第五類移行ということで、今年度は活動も注意を払いながら行う事ができました。健康ウォーキング2回、要配慮者食事サービス3回、グラウンドゴルフ大会2回、花の慰問2回、在宅介護者のつどい、福祉学習会、ひまわり会2回、敬老者への慰問、市民体育祭、ふれあいウォークラリー大会とたくさんの方にきていただきました。

ひまわり会は、昨年度はコロナ禍で感染症予防の観点から2回とも実施できませんでしたが、今年度は8月3日に明治安田生命の「認知症予防講座」、12月6日に「最高の人生の見つけ方」の映画鑑賞会を行いお互いの親睦を深めることができました。



ふれあいウォークラリー大会は、昨年度も実施した活動で大変好評でした。今年度は広瀬地区ということで、子どもから年配の方まで役員を含め150名余りの参加で、おいしいぜんざいもあり、天候に恵まれ盛大に開催することができました。事務局始め役員の方々には大変お世話になりました。

要配慮者への食事サービスでは、昨年度まで元気でみえた方が亡くなられたり、施設に入られたり残念な現実もありましたが、待っていてくださる方の元気な姿を拝見すると嬉しく思い、元気を貰いました。人間いつまでも元気でというのは無理なことです。健康寿命に心がけたいです。以前新聞で読んだ記事で、健康寿命を心がけるには「か、き、く、け、こ」つまり、



物事に「関心、興味、工夫、健康、好奇心」を持つことが大切です。心がけて生活したいものです。

環境・安全防災部会

環境・安全防災部会では、ササユリの保護活動、ホタルの生息調査、花いっぱい運動、水質検査、教育文化部会との合同で行う川遊びアンド生き物調査、環境美化活動、三地区合同放水訓練、防災訓練等を行いました。5月28日下茅原防災訓練が松阪勢和分署の指導のもと行われ、92名の参加がありました。その日の午



後、部会員10名で朝日新聞記者取材の中、ササユリの生育状況を下茅原神社周辺で行いました。上地原のササユリは1か所は良い感じでしたが、他の箇所は草刈りをしてくれる人が高齢化して、特に傾斜地の草刈りが難しくなっているため、



減ってきています。場所によってはシカや猿に食べられていました。下茅原もササユリは保育園裏の山の土手でも結構見かけまし

た。ホタルも近くで30匹ぐらい飛んでいました。神社の方でも100匹ほど見かけたという人もいるとのこと。

8月の川遊びアンド生き物調査は台風による増水のため、今年も実施できませんでした。花いっぱい運動は水やりが大変です。10月20日水質検査を保育園下の六呂木川、津留橋上流の櫛田川の2か所で行いました。どちらも概ね良好で、大腸菌数は昨年より櫛田川では若干増え、六呂木川では若干減っていました。これまで櫛田川と六呂木川では、六呂木川の方が多く、少し差が少なくなりました。



地域振興部会

地域振興部会では、園芸教室、広報紙発行、サツマイモの植え付け、サツマイモ掘り体験、夏祭り協賛事業、ふれあいまつり等を計画しました。

コロナも五類に移行され、参加人数も多く、行動範囲も広くなり、思うように動けました。また、サツマイモの植え付けはつばな保育園児や保育士さん、地域の皆様方のご協力のもと、進めることができました。今年は200本の植え付けをしたので、少し時間がかかりました。収穫の際には、たくさんのサツマイモを掘ることができ、保育園児の喜び声を聞くことができました。土地の所有者の若山学様には、ご協力いただき、誠にありがとうございました。



ふれあいまつりは、前日の準備が雨模様で早く



終わり、翌日1時間早く準備していただきました。公民館趣味クラブの作品、つばな保育園児の作品、絵画、写真、手芸作品等

の展示と、茅江住民自治協議会の各部会の活動を、写真で紹介し、学ぶことが多かったように感じました。11月19日は、三交バスが無料の日であったため、たくさんの方にご来場いただきました。また、ゲームなどは子どもたちが非常に楽しんでいました。花苗は人気で、早い段階で売り切れました。焼芋も人気で15名ほど待っていただくことができました。各種行事に関して役員の方々の皆さまほか、たくさんの方々に大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



教育文化部会

令和6年1月1日に発生した能登半島地震で亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。また、被災者の救済と被災地の復興支援のためにご尽力されている方々に深く敬意を表します。

そのような中、教育文化部会の今年度の活動は、健康料理教室、つばな保育園児との交流会、社会見学、相可高校料理教室、教養講座など、予定通り概ね実施することができましたことに感謝いたします。これも偏に関係者の皆様のお力添えがあってこそ。また参加いただける地域の皆様が健康で、元気でいてくださるからこそ実施可能となるものです。



今年度より教育文化部の部会長を拝命しましたが、正直事務局の方に頼りきりになってしまい、



私個人は何もできなかったと反省するところです。5月にコロナウイルス感染症が第五類に分類され、今年度は開催の可否について検討すること

はほぼありませんでした。秋口よりコロナ並びにインフルエンザの流行が見られ心配もしましたが、この地域においては大きな影響を受けることはありませんでした。残念ながら8月に予定していました川遊びアンド生き物調査は事前の雨による増水で中止となりましたが、ほぼ全ての行事を開催することができましたこと心より御礼申し上げます。地域の皆様には、本部会の諸活動にご協力くださりまして、誠にありがとうございました。次年度もご協力のほどよろしくお願いいたします。

